

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新潟市立下山小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)
所在地 〒950-0069
新潟県新潟市東区太平2丁目18番地
E-mail e207shitayama@city-niigata.ed.jp
Website http://www.shitayama-e.city-niigata.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 370名 女子 347名 合計 717名
幼児・児童・生徒の年齢 8歳～12歳
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「地域と協働する学習」を活動テーマとして、ESDを生活科と総合的な学習の時間の中核と捉え、ESDの実践を通して様々な交流を大切にしながら地域と協働する活動を行い、自己有用感を高め、社会に貢献できる児童の育成を目標とした。

具体的には、生活科、総合的な学習の時間を柱に、①地域に係わる学習、②国際理解に係わる教育、③人権・平和に係わる学習、④地域と協働する学習を行った。

① 地域に係わる学習(3年生)

下山地区の新潟が誇る特産物である“やわ肌ねぎ”の植え付けや収穫を行った。やわ肌ねぎは、とても美味しい食材だが、生産者が高齢化していたりお世話が大変なため生産する農家が減少していたりする現状がある。地域の特産物として、地元の生産者と一緒にやわ肌ねぎの植え付けや収穫を行ったり、話を聞いたりする活動を通して、実際の収穫の様子や集荷の実態や生産者の思いや願いを理解することができた。また、生産者を招いて収穫を感謝する会を行い、やわ肌ねぎを食しながら学習したことや感じたことを生産者へ伝えることができた。この学習で、児童がやわ肌ねぎに興味を抱き、地元の特産物として大切にしていかなければならないものであると自覚する学習になった。

② 国際理解に係わる学習（4年生）

新潟空港の特色や役割を調べ、新潟空港が新潟県や新潟市にとってとても重要な交通の拠点になっていることを理解した。新潟空港は国際空港であることから、“世界とつながる新潟”を意識し、世界を身近に感じることができた。また、外国の方や日本以外の国について知っている方から話を聞くことで、児童は世界に目を向けるきっかけとなり、興味をもった国々を調べ日本と異なる文化があることに気付いた。

③ 人権・平和に係わる学習（5年生）

児童の人権意識を高め、周りへの思いやりの気持ちを育む人権啓発を学年だけでなく全校へ広げる活動を行った。人権とは何かを学び調べ、分かりやすく全校へ伝え、人権意識向上に向けて各学級でメッセージを考える活動を行った。人権啓発キャラバン集会では、各学級で考えたメッセージを一つ選び新潟市の人権キャラバン隊の「人権ハート」の枠に部分として当てはめた。この学習を通して、全ての人は一人一人が、人であるということだけで「かけがえのない」、「尊い」、「大切な」なものである（人の尊厳）ということを理解することができた。

④ 地域と協働する学習（6年生）

下山オリジナル商品で「空港のまち下山」を活性化させるための活動を行った。地域の商店街「そらタウン（空港前商工振興会）」の会長から、そらタウンの知名度が低いことや加盟店のまとまりがないなどの現状を教えていただき、自分たちにできることを考えていった。児童は、地域のパンやさんと共同開発したパンや PR グッズを企画販売し、地域を盛り上げることに貢献した。また、地域のことを調べてまとめた PR チラシを配ったり発表したりし、多くの方から下山地区を知ってもらうことができた。

また、新潟空港の「Happy そらフェスタ」年に一度のクリスマス点灯式において、パンとグッズの販売と PR チラシのポスターセッションを行い下山の魅力を発信した。この活動を通して児童は、一つのことを目指しみんなで協力して行えば、目的を達成することができるという自信や満足感を得ることができた。



① 3年 やわ肌ネギ収穫



② 4年 学習のまとめ発表



③ 5年 人権キャラバン集会



④ 6年 PR チラシポスターセッション
（新潟空港にて）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「総合的な学習の時間」チャレンジタイムの年間指導計画に、ESD と表示。指導内容、主な活動内容、各教科との関連やゲストティーチャー（予定）を示している。

その年間計画をもとに、児童の願いや思いを引き出し、見つけた課題を解決していくことができるように学習活動を展開している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年間計画に基づき行っている学習について、学習の様子や取り組みについて、年2回程度情報交換（スタッフミーティング）を行っている。

また、年度末には、今年度の取り組みの成果と課題を明らかにするとともに、来年度の取組についてグループワークを行い、工夫改善できそうな活動や取組について職員全員で検討している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に、今年度の取り組みの成果と課題を明らかにするとともに、来年度の取組についてグループワークを行い、工夫改善できそうな活動や取組について職員全員で検討している。

地域の実情を把握し、地域の協力を得て「自分たちでできること」を考えたことで、「空港のまち下山」と児童がつながり、児童の誇りを高め愛着を深めた。仲間とともに一つの目的に向かって取り組んだ活動は、自己有用感を高め互いを尊重し合うことの大切さに気付くことができた。

当校地区にはまだまだ財産があるので、より学習を深めるために、試行錯誤をしながら効果的な取組を精査し持続可能な取組としていきたい。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項2-2に対応

学習参観日や伸び伸びフェスティバル、新潟空港「Happy そらフェスタ」年に一度の大イベント“クリスマス点灯式”などで、学習の成果を発表した。特に、新潟空港で、6年生がパンやグッズを販売したりPRチラシをポスターセッションで発表したりし、多くの方々に聞いていただいたことは、自分たちが学習したことに自信と誇りを持ち、自分の可能性を開こうとする児童が増えた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)
※チェック事項2-3に対応

新潟空港や「そらタウン」(空港前商工振興会)と協働する学習を行った。新潟空港見学や新潟空港のイベント(「そらの日」、「Happy そらフェスタ〜クリスマス点灯式」)に参加し、学習の成果を発表した。また、「そらタウン」(空港前商工振興会)と協働し、パンやグッズの販売を行うことができた。
新潟県立大学との協働について、次年度の計画を立案中。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項2-4に対応

特に、なし。